

取扱説明書

大型ロボット用エア静電自動ガン

EAB400R



この説明書には、重要な警告や注意事項が記載されています。
本機を使用される前に、必ずよく読んでください。

この説明書は、製品を廃棄するまでは、必ずお手元に保管し、
紛失・汚損した場合は、販売店または当社までご請求ください。

はじめに

このたびは、当社製品エア静電自動ガン〈EAB400R〉をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品を常に最適な状態でお使いいただくために、ご使用される前に、この取扱説明書を必ずよくお読みください。

とくに仕様に定められた諸項目を十分ご理解され、その正しい使用方法に従った使い方をさせていただきますようお願い申し上げます。

この製品は、静電コントローラ（BPS260）と合わせて使用します。
静電コントローラの取扱説明書も必ずよくお読みください。

なお、ご不明な点がございましたら「型式」「製造番号」をご確認の上、
当社の営業担当または裏表紙の連絡先にお問い合わせください。



この取扱説明書はすぐに確認できる場所に大切に保管してください。

目次	
1	安全に正しくご使用いただくために 1
2	装置概要 7
	2.1 本体部品名称及び役割 7
	2.2 バックプレート接続部名称 8
	2.3 ガン本体構成品 9
	2.4 関連付帯部品（オプション品） 9
	2.4.1 エアキャップ（型式：HN シリーズ） 9
	2.4.2 静電コントローラ（BPS260） 10
	2.4.3 送電ケーブル 10
	2.4.4 各構成部品への接続 11
3	仕様 12
	3.1 外形 12
	3.2 製品仕様 12
4	運転前の注意事項 13
5	運転操作の手順及び注意事項 14
	5.1 塗料 14
	5.2 各エア調整 16
	5.3 吹付距離 17
	5.4 運行速度 17
	5.5 印加電圧 17
	5.6 システム操作順序 17
	5.7 作業中断及び終了時の取扱 18
6	保守及び定期点検 21
	6.1 作業終了時の措置 21
	6.1.1 24 時間以内に作業を再開する場合 21
	6.1.2 24 時間以上作業をしない場合 24
	6.2 その他の機器の保守 26
	6.3 定期点検 26
	6.4 消耗部品 28
7	塗装不良対策 29
8	故障とその処置 31
9	部品取替方法 33
	9.1 ガン本体の分解 33
	9.2 メンテナンスツール 39
10	構成部品 40
	10.1 EAB400R 40
	10.2 交換部品 43
11	処理記録 43
12	保証書 44

本取扱説明書の内容を良くご理解頂き、必ず取扱方法を遵守してください。
この取扱説明に抛らないで使用すると、**人体の傷害や器物の損壊、火災事故**を招く恐れがあります。

以下に述べる安全についての注意事項は、当社製品のご使用に際し最小限の基本的な安全対策と考えてください。

●安全に関する危険レベルを次の2段階に区分して表示してあります。

**警告**

死亡または重大な傷害を招く可能性のある危険

**注意**

軽傷・中程度の傷害を負うか、物理的損壊のみを招く可能性のある危険

●その他の重要事項は、次のように表示してあります。

注記

機器の性能や機能を十分に発揮してお使いいただくために守っていただきたい内容

なお、国や自治体の消防、電気、安全関連の法規、規則、またそれぞれの企業や事業部で規則、規定として守るべき事項に従ってください。

《製品に適した使用範囲》

本製品は排気設備を有する塗装環境に設置し、エア静電霧化スプレー用の塗料を使って塗装をするための自動ガンです。

上記以外の条件でご使用になる場合は、不適正使用となり、事故の原因になることがありますので、十分ご注意ください。

 **警告**

火災と爆発



塗装場の火災、爆発の防止

- ハロゲン化炭化水素溶剤は使用しないでください。
本製品の構成部品に含まれるアルミ合金が化学反応を起こして爆発する危険があります。
- 本製品を仕様範囲外で使用しないでください。
仕様範囲外で使用すると火災の危険があります。
- 換気装置で適切な給排気を行ってください。
揮発した有機溶剤などが滞留し、引火による火災の危険があります。
- 塗装室内及び排気装置（ダクト・ファン）は定期的に清掃してください。
堆積した粉が剥離するだけでスパークが発生し、粉塵爆発を起こす危険があります。
万一出火した場合に、塗料カス等があると延焼しやすくなり被害が大きくなります。



アース不良による火災、感電の防止

- 塗装ブース内の導電体（塗料容器、周辺機器等）は全てアース線で接地してください。
高電圧によりイオン化された雰囲気中において、アース不良の導電体は帯電し、火花放電による火災や感電の危険があります。
アースはD種接地以上の工事（接地抵抗100Ω以下）を行ってください。
- 被塗物（ワーク）のアース状態を常に保持してください。
帯電したワークにより火花放電による火災や感電の危険があります。
- 塗料ホースはアース線で接地してください。
帯電により火花放電による火災や感電の危険があります。
塗料がインジェクタおよび塗料ホースを流れる時、静電気が発生し帯電します。
- 塗料容器はアース線で接地してください。（絶縁架台の仕様は除きます。）
塗料経路により塗料容器が帯電する可能性があり、火災や感電の危険があります。
- 静電コントローラはアース線で接地してください。
帯電により火花放電による火災や感電の危険があります。
アース線は外れないようにビス止め等で接続してください。

 **警告**

火災と爆発



アース不良による火災、感電の防止

- ハンガに固着した塗料は定期的に剥離してください。
ハンガと被塗物の接触部分に塗料が固着するとアース不良による火災や感電の危険があります。接地抵抗値は金属の場合は $1\text{k}\Omega$ 以下（樹脂の場合は $1\text{M}\Omega$ 以下）にしてください（測定電圧は 500V 以上）。
- 塗装に不必要なものは塗装ブース内に置かないでください。
帯電により火花放電による火災や感電の危険があります。
- 塗装作業者は帯電防止の措置を取ってください。
人体帯電による火花放電が発生し、火災や感電の危険があります。



塗料、溶剤への引火による火災防止

- ノズル洗浄を行う時は、静電コントローラの電源を切ってください。
ノズル洗浄時に高電圧が印加されると火災の危険があります。
- 火花の発生する装置やマッチ・ライターなどを持ち込まないでください。
可燃性物質に引火して爆発、火災の危険があります。

機器誤用



整備不良による事故の防止

- 異常音、異常振動、高電圧リーク等がある場合はただちに運転を停止してください。
製品破損により火災の危険があります。
- 部品破損・欠損がある状態で運転しないでください。
製品破損により火災の危険があります。

 **警告**

人体保護



高電圧からの保護

- 静電靴（JIS T8103 に規程されているもの）を着用してください。
人体帯電による火花放電が発生し、火災や感電の危険があります。
- 高電圧印加中はガン本体に近づかず、ガン本体に接触しないでください。
高電圧部への接触により、感電の危険があります。
- 塗装作業床は、漏洩抵抗 1 MΩ 以下の静電気帯電防止構造にしてください。
作業者が感電する危険があります。帯電防止のために、帯電防止構造の対象範囲は、密閉式塗装室内であれば作業床全体、開放式塗装ブースであればブース開口部の両側 1.5m と手前側 2.5m で囲まれた区域です。
帯電防止の効果維持のため、作業床は汚れたら清掃してください。
- ペースメーカーを使用している人は本製品を使用しないでください。
本製品の高電圧により、ペースメーカーが誤作動や停止する危険があります。



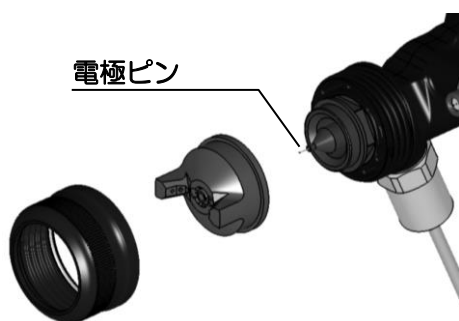
溶剤、空気、塗料圧力からの保護

- 人に向けて塗料を噴出させないでください。
有害物質により炎症や中毒症状など重傷を負う危険があります。
加圧された塗料により、人体に損傷を負う危険があります。
 - 塗料を扱う際は、保護メガネ、保護マスク、保護手袋※1 を使用してください。
有害物質により炎症や中毒症状など重傷を負う危険があります。
使用する塗料の安全データシート（SDS※2）をよく読み、適切なばく露防止および保護措置を取ってください。
※1 けい皮吸収保護や防汚目的で保護手袋を使用する場合、人体帯電をしないようにする必要があります。確実にアースを取るようになしてください。
（推奨保護手袋 JIS T8118 に規定されているもの、またはアースバンド等）
※2 SDS：Safety Data Sheet
- 室内及び排気装置（ダクト・ファン）は定期的に清掃してください。
給排気装置が正常に作動しない場合、有害物質により炎症や中毒症状など重傷を負う危険があります。

《安全にご使用頂くための警告・注意事項》

⚠ 注意

- 本製品を仕様範囲外で使用しないでください。
仕様範囲外で使用すると製品破損を引き起こす可能性があります。
- 塗装機本体・接続/延長ケーブル・ホース類は洗浄剤の中に浸漬しないでください。
静電塗装機は電気機械のため、洗浄剤の中に浸漬すると故障の原因となります。
- 接続/延長ケーブル・ホース類は床面を引きずらないで天井または側壁から吊り下げてください。
擦り傷などによる損傷の原因になります。導電性塗料を使用する場合は、塗料ホースを必ずゴムチューブなどの絶縁物で吊り下げてください。
- 塗装機本体および構成部品の洗浄には金属ブラシを絶対に使用しないでください。
傷がつき、故障や塗装不良の原因になります。
ノズルや電極は塗装機の重要部品です。金属ブラシを使用して傷つけると均一な噴霧状態が維持できなくなります。
- ノズル先端と被塗物の距離は必ず 150mm 以上離してください。
ノズル先端の電位が低下し、塗装不良の原因になります。
- 塗料漏れ、エア漏れ、ネジの緩みのないことをこまめに点検してください。
- 塗装機の電極ピンを不用意にさわらないでください。
電極ピンが刺さり、人体に損傷を負う可能性があります。
電極ピンは刺さりやすいので取り扱いには注意してください。

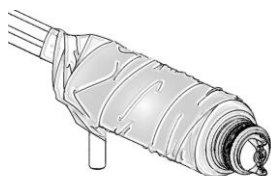


《安全にご使用頂くための警告・注意事項》

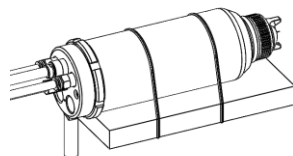
! 注意

- 下記のような取付はしないでください。

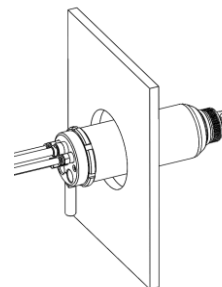
静電ガンはガン先に高電圧を印加し、後部はアース接地して使用するため、本体部分（絶縁部分）には障害物などを配置しないようにして下さい。



①ガン本体に汚れ防止シートを巻いたまま使用すると、内部に湿気がたまり過電流異常となります。



②ガン本体に接近させて金属板を張り付けるとガンの帯電部と板の間で絶縁破壊が起こる可能性があります。



③金属板の孔にガン本体を通して使用すると②と同様に絶縁破壊が起こる可能性があります。

- 消火器を作業区域付近に常設してください。

万一の火災事故に備えて、定期点検を受けたものを常設してください。

- 本製品を破棄する場合は、地球環境保全のため、各地方自治体の条例に基づいた適切な方法で処理してください。

不法投棄は、環境への負荷となるだけでなく、法による罰則の対象となります。

※参考文献：労働安全衛生規則、静電塗装の安全衛生対策（中央労働災害防止協会 発行）

2

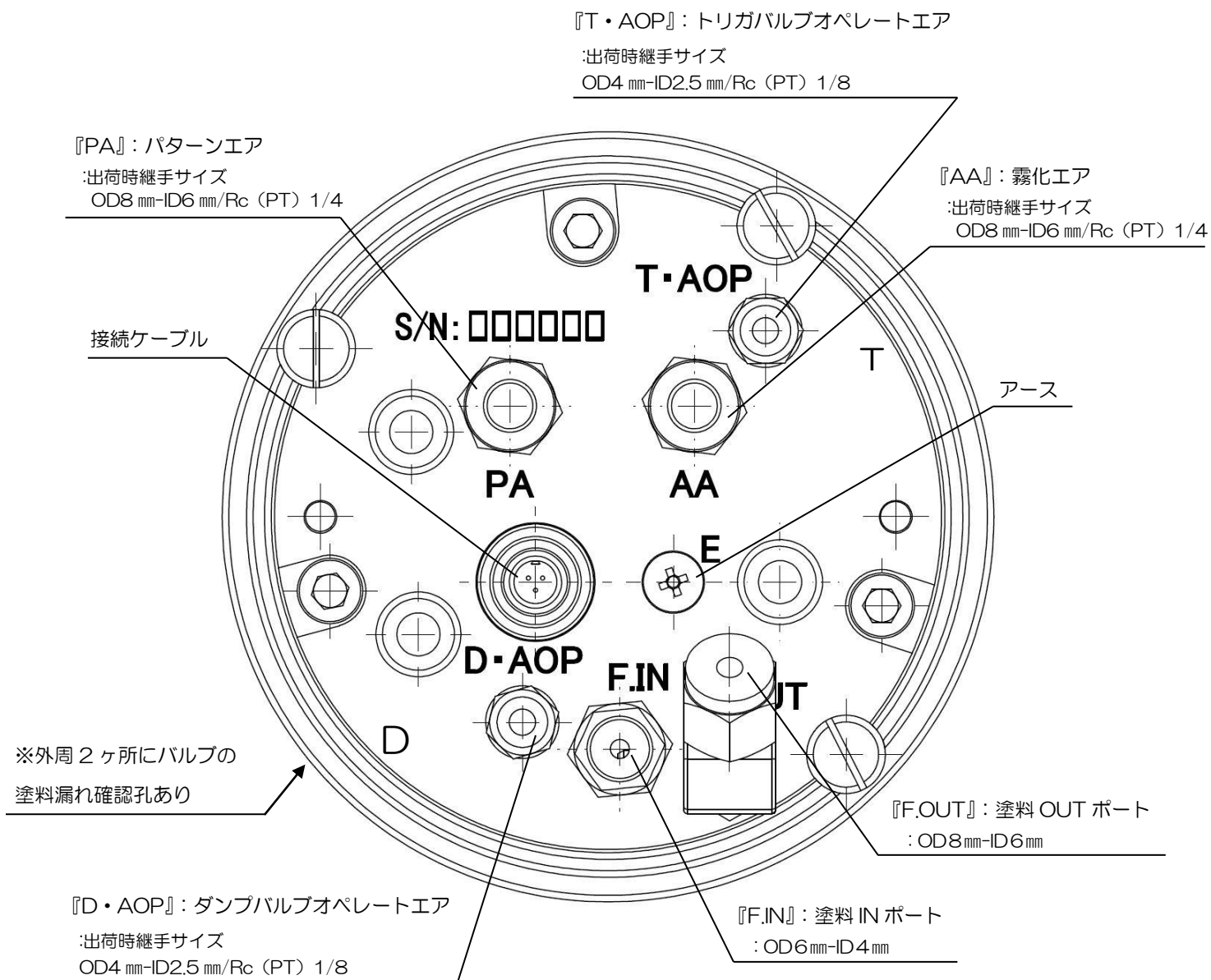
装置概要

2.1 本体部品名称及び役割



※ストレートチューブ仕様もあります。

2.2 バックプレート接続部名称



⚠ 注意

バックプレートは必ずアースを取ってください。
放電し予期せぬ事故に繋がる恐れがあります。

2.3 ガン本体構成品

①エア静電自動ガン本体（EAB400R）

ガン本体はカスケード（高電圧発生器）が内蔵されていると共に塗料トリガ/ドレンバルブ、各エア・塗料経路を有する構造となっています。

②塗料ノズル

ガン先端にて塗料を噴出させると共にパターンエア及び霧化エアを切り分ける役割です。

③チャージ電極

ガン先端にて噴出された塗料に対して高電圧を印加させ、静電塗装を行います。

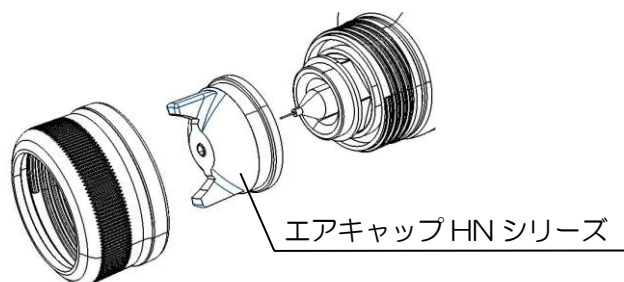
2.4 関連付帯部品（オプション品）

- 関連付帯部品及びメンテナンスツールは本製品を運転・運用を行うために必要な機器・ツールです。用途・条件によって下記内容から適切な機器を選定し、**別途手配**してください。
- 関連付帯機器の製品・部品手配に関しては別途各機器取扱説明書で品番・数量を確認して行ってください。

2.4.1 エアキャップ（型式：HN シリーズ）

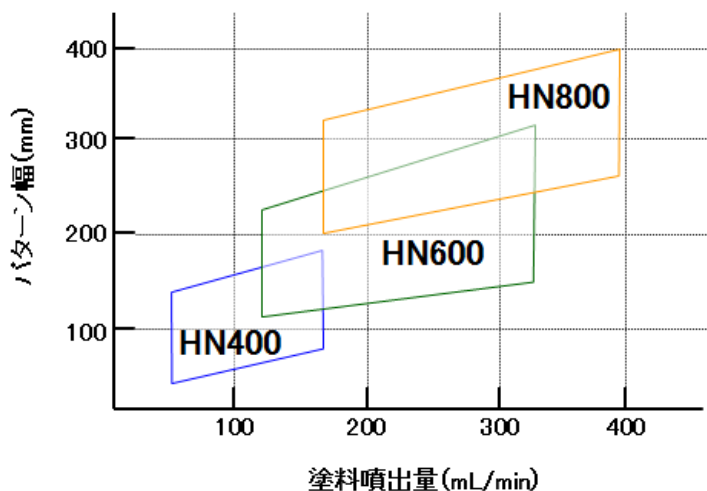
- 塗装機先端に取り付け、エアの力によって霧化及びパターン形成させる働きをもつ部品です。
- 下表よりご使用状況に合わせた仕様のエアキャップを選択してください。

エアキャップHNシリーズイメージ図



※HN 各シリーズは全て共通のペイントノズル ASSY で使用出来ます。

<エアキャップ選定目安>



エアキャップ品番リスト

型式	用途	品番
HN400	狭小パターン	15F8-001
HN600	汎用	15F8-101
HN800	高微粒化	15F8-201

2.4.2 静電コントローラ (BPS260)

- 塗装機本体に内蔵されているカスケードの高電圧印加制御を行う機器です。
また、使用時の電流値監視で各種異常検知及び出力を行います。

BPS260 外観



※仕様詳細に関しては BPS260 の取扱説明書を参照願います。

静電コントローラ品番リスト

No.	品名	品番	仕様
1	BPS260	445-0159	日本語/英語 併記 Ver.
2		445-0160	英語 Ver.

2.4.3 送電ケーブル

- 塗装機本体と静電コントローラの間「接続ケーブル」と「延長ケーブル」を組み合わせることで接続し、最大 30m まで使用することができます。

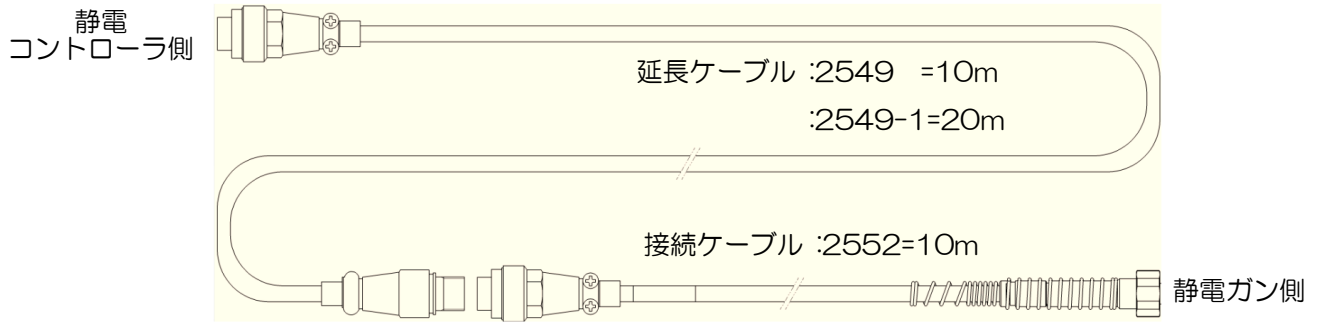
接続ケーブル品番リスト

No.	品名	品番	仕様
1	接続ケーブル	2552	10m

延長ケーブル品番リスト

No.	品名	品番	仕様
1	延長ケーブル	2549	10m
2		2549-1	20m

送電ケーブル接続図



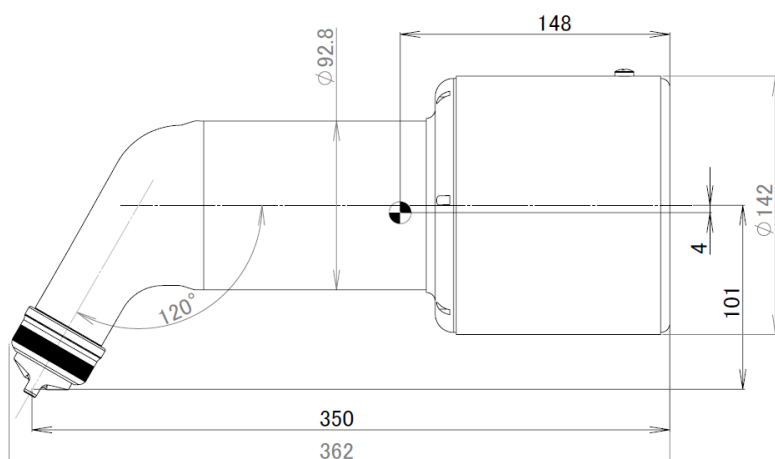
2.4.4 各構成品への接続

- エア・塗料の各経路は「2.2 バックプレート接続部名称」に従って別途手配・接続工事を行ってください。それぞれ接続するエア・塗料チューブは、仕様を確認して正しく接続してください。

3

仕様

3.1 外形



3.2 製品仕様

型式	EAB400R
本体寸法	上記外形図参照
質量	3,100 g ※塗料ノズル含む、エアキャップ除く
最高液圧力	0.6MPa
最高エア圧力	0.6MPa
最大印加電圧	DC-60kV
最大電流値	80 μ A
トリガバルブ作動圧力	最小作動圧力：0.35MPa 常用作動圧力：0.4~0.5MPa
適応エアキャップ	HN400/HN600/HN800
静電コントローラ	BPS260 シリーズ
接続ケーブル長	10m ※延長ケーブルと組み合わせることにより 30m まで延長して使用することができます。
使用環境	温度：5~40°C 湿度：40~80%
供給エア条件	固形粒子サイズ：0.1 μ m 以下 圧力下露点：10°C 大気圧露点：-17°C 油残量：0.01mg/m ³

注記

塗料は40°C以下の温度で供給してください。
塗料の温度が高い場合、塗料ホースが柔らかくなってはずれることがあります。

注記

塗料圧送装置および塗料レギュレータについては、各取扱説明書を参照ください。
また、塗料圧送圧力は0.6MPa以下で使用してください。

4

運転前の注意事項

「EAB400R」のシステムは安全性に重点をおいて構成されておりますが、「可燃性のガスが存在する場所」で使用されるため、十分すぎるほどの注意をもって取扱う必要があります。

警告

- 被塗物は常に接地状態に保持してください。
(金属の場合は 1kΩ、樹脂の場合は 1MΩ以下とする。)
被塗物は一般的には、コンベアから接地されますが、ハンガとの接触部分に塗料が固着すると導通不良となり、被塗物に相当の電荷が蓄積され、スパークを生じて火災になる危険があります。
ハンガの塗料は定期的に剥離させてください。
- 塗装室内の金属物体は全て接地してください。
塗装室内は高電圧が露出しておりますので、室内の金属体は接地してないと帯電してスパークを生じて火災になる危険があります。
- エア静電自動ガン塗料ノズルに被塗物を接触させないでください。
被塗物の吊下げ不良や、コンベアの揺れにより被塗物がノズルに近接するとスパークを生じて火災になる危険があります。特に、絶縁台を使用している場合には、大きなスパークが発生する為、十分な吹付距離を保ってください。
- 絶縁台を使用する場合には、塗料供給装置は周囲の物体から 300mm 以上離してください。
電気抵抗の低い塗料は電線と同じように電気を通しますから、塗料容器等に接触すると電撃を受ける危険があります。通路に面している場所では、接地した安全柵が必要です。
- 作業者は静電靴（電気抵抗 1MΩ程度）をはいてください。
ゴム底、合成樹脂底の靴をはきますと、接地体に触れた時電撃を受ける危険があります。
- 塗装作業中は必ず換気装置を作動させてください。
塗料や溶剤は消防法により危険物規制を受けており（危険物第 4 類に該当します）、更にこれらの噴霧により発生する可燃性のガスは工場防爆指針による爆発性ガス（爆発等級 1）に該当しておりますので、換気装置を停止させたままでの作業は出来ません。
- 塗装室内に塗料や溶剤を放置しないでください。
塗料や溶剤は危険物規制を受けておりますので、法規に定める貯蔵庫に保管させてください。
特に、洗浄用の溶剤は接地した蓋付きの容器に保管してください。
- 消火器を備えてください。
いざという時のために、粉末の炭酸ガス消火装置を必ず備え付けてください。

5

運転操作の手順及び注意事項

塗装作業の前に、下記手順に従って塗装準備を行ってください。

注意

静電コントローラの電源スイッチがOFFになっていることを確認してください。

5.1 塗料

①塗料の調合

この装置は、一部の塗料を除き、ほとんどの合成樹脂塗料で静電効果を得る事ができますので、特別に塗料の調合をする必要はありません。但し、場合によって溶剤の電気抵抗などの調整を行うことにより、更に高い静電効果を得ることができます。また、一部の電気抵抗値が極端に低い塗料・高い塗料は、静電効果があまり期待できないものがあります。塗料抵抗計にて抵抗値を確認してください。

塗料抵抗値は、およそ $15\sim 70M\Omega\text{cm}$ の値を目安に調整することによって、ほとんどの場合、良好な効果を得ることができます。 $15M\Omega\text{cm}$ より低い抵抗値では静電効果が良好であっても、ブースの換気が適切でない場合、ガンへ塗料の吹きかえりが生じます。

注記

静電効果の良否の判定方法は、 $\phi 20\sim 30\text{mm}$ の鋼管を接地した状態にて正面より塗装し、裏面まで塗膜が形成されていれば、静電効果が良好であることを示します。

注意

メタリック、水性塗料等の極端に電気抵抗値が低い導電性塗料は、絶縁台を使用した塗料供給システムを使用しなければ静電効果をほとんど期待する事ができません。また、このような塗料では高電圧印加時に静電コントローラの高電圧遮断回路が作動し、警報ブザーと共に高電圧を遮断します。静電コントローラの電源スイッチをOFFにすれば、警報ブザーはリセットされます。

注意

引火点が室温より 5°C 以上高い塗料や溶剤を使用し、必ず換気装置を作動させてください。

注記

ガン及び装置と塗料の適合性が不明な場合は、当社までご相談ください。

②塗料投入

塗料供給装置へ塗料を入れてください。

本塗装装置を使用の際の一般的標準粘度としては、9～30sec/FC#4 程度ですが、塗料、溶剤の種類、被塗物の形状、及び塗膜の厚み等の種々な条件により、必ずしも限定されるものではありません。

③塗料供給（操作に関してご使用される塗料供給装置の取り扱い説明書をご参照ください）

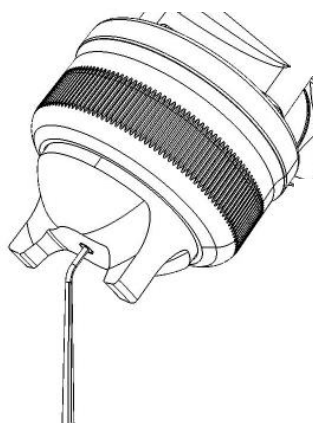
塗料ホース中に空気が残っていると塗料噴出時に息切れ状態となり、噴出状態が一定しませんから、ホース内の空気は完全に抜いてください。

④塗料噴出

ガン先から塗料を噴出させます。

ガンにエアを供給しない状態で、塗料バルブをONにして、塗料をガン先から噴出させます。

塗料ホース内に空気が残っていると、塗料噴出時において息切れ状態となりますので、ホース内の空気が無くなるまで塗料を噴出させてください。



⑤塗料噴出量の調整

制御盤の作業選択スイッチを「手動」操作にし、塗料開閉用スイッチを「入」にし、制御盤下面の塗料噴出量調整用のエアレギュレータ圧を昇圧し、ノズルより塗料を流出させながら規定噴出量に調整します。

5.2 各エア調整

①霧化エア調整

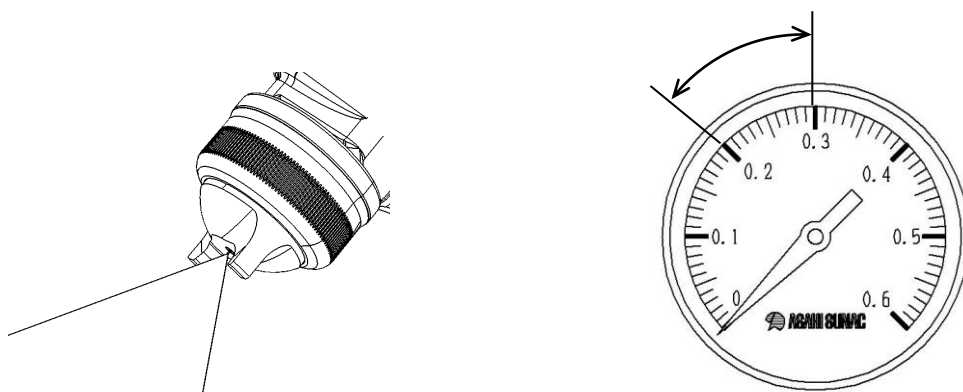
ガンから噴出する塗料の霧化状態を確認します。

ガンに供給するエア圧を 0.2~0.3MPa (目安) にし、トリガバルブを開放して塗料を霧化させます。

霧化エア圧の調整は、制御盤の作業選択スイッチを「手動」操作にし、霧化用スイッチを「入」にし、制御盤下面の霧化エア調整用のレギュレータを操作して、エアキャップよりエアを噴出させながら行ないます。

霧化/パターンエア圧は一般的には、平吹ノズルで 0.05~0.35MPa の範囲ですが

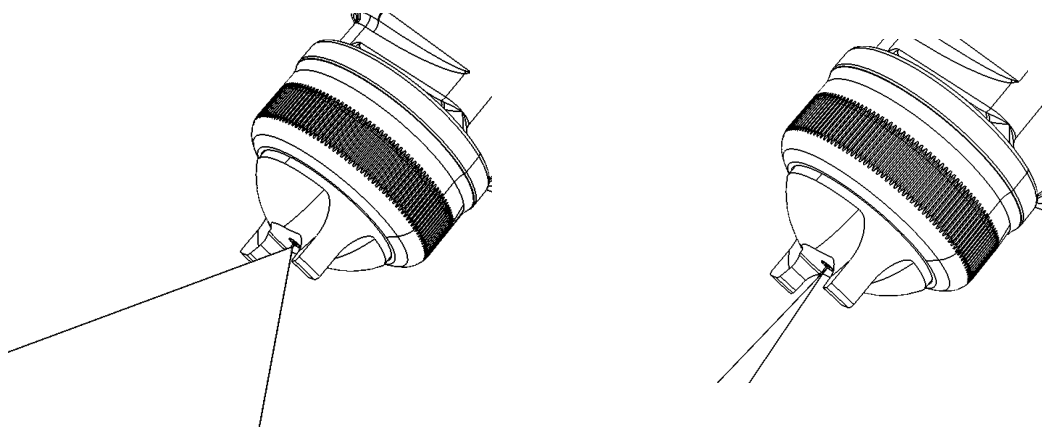
使用するエアキャップや目標とする仕上がり状態に合わせてエア圧力を調整してください。



②パターンエア調整

霧化された塗料のパターン幅を調整します。

パターン変更エア圧の調整は、制御盤の作業選択スイッチを「手動」操作にし、霧化用スイッチを「入」にし、制御盤下面のパターン変更用のエアレギュレータを操作して、塗料を噴霧しながら噴霧パターン幅の変更を行ないます。



5.3 吹付距離

吹付距離はノズル先端と被塗物の最接近距離を 150mm 以上とし、塗装機はアクチュエータ前面より前に出してください。

距離を離しすぎると付着効率が減少し、接近しすぎるとスパークのおそれがあります。

最適吹付距離は、150～300mm の範囲です。

5.4 運行速度

ガンの運行速度は必要とする塗膜の厚みから決まりますが、一般的には 15～45m/min の範囲です。

毎分 50m を超す速度でも必要な塗膜が得られない場合には、エア静電自動ガン数を増加するか、塗料ヒータを加える（塗料は 40℃以下でご使用ください。）などの検討をする必要があります。

その際は、当社塗装技術部門にご連絡をお願い致します。（運行速度を速くする事は、付着効率の低下を招き、最良の策とはいえません。）

5.5 印加電圧

塗料の種類や被塗物の材質により調整します。一般的には、-30～60kV 位、メタリックや水溶性塗料では-20～40kV 位、木工製品では-20～60kV 位です。

5.6 システム操作順序（システムの仕様により異なります。標準的な仕様の例です。）

① 手動操作

- 電源を投入する。

盤内のブレーカを投入し、「電源」表示灯の点灯を確認する。

ドアスイッチ使用の場合は、ドアスイッチが閉じていることを確認する。

- 作動選択スイッチを「手動」に合わせる。

「手動」表示灯を確認する。

- 作業選択スイッチを「塗装」に合わせる。

- 霧化用エアおよびパターン変更用エアを噴出する。

霧化用スイッチを「入」に合わせる。「霧化」表示灯の点灯を確認する。

- 塗料を出す。

塗料用スイッチを「入」に合わせる。「塗料」表示灯の点灯を確認する。

制御盤下面のエアレギュレータにより、霧化エア圧、パターン変更エア圧および塗料噴出量の調整を行う。

- ご使用のアクチュエータ用「起動」スイッチを押し、表示灯の点灯を確認する。

- 高電圧を供給する。

制御盤正面中央のコントローラの電源スイッチを「ON」にする。この時、コントローラの電源ランプ（緑色）の点灯を確認する。次に制御盤正面上方の高電圧用押ボタンスイッチ「入」を押し。

この時「高圧」表示灯および、コントローラの高圧ランプ（赤色）の点灯を確認する。

- 塗装作業に移る。

②自動操作

- 電源を投入する。
盤内のブレーカを投入し、「電源」表示灯の点灯を確認する。
ドアスイッチ使用の場合は、ドアスイッチが閉じていることを確認する。
- 作業選択スイッチを「自動」に設定する。
- 作業選択スイッチを「塗装」に設定する。
- 霧化用スイッチが「入」になっているのを確認する。
- 塗料用スイッチが「入」になっているのを確認する。
- ご使用のアクチュエータ用「起動」スイッチを押し、表示灯の点灯を確認する。
- 高電圧を供給する。
制御盤正面中央のコントローラの電源スイッチを「ON」にする。
この時、コントローラの電源ランプ（緑色）の点灯を確認する。
次に、制御盤正面上方の高電圧用押ボタンスイッチ「入」を押す。
この時「高圧」表示灯およびコントローラの高圧ランプ（赤色）の点灯を確認する。
- 塗装作業に移る。

5.7 作業中断および終了時の取扱

①ペイントノズルの洗浄

作業中断および終了時には必ずノズルを洗浄します。

- 高電圧用押ボタンスイッチの「切」を押して高電圧を切る。
- アクチュエータを停止させ、塗料とエアの噴霧を止める。
- 塗料ノズルの先端に接地したアース棒を 10 秒以上確実に接触させて、残留電荷を完全に放電する。
- 溶剤を含ませたブラシ（馬毛、動植物性の毛を用いたブラシ）を用いて、ノズル表面に付着した塗料を溶かしながら洗浄する。
ブラシでこすっても落ちない場合は、ノズルを溶剤中に数分間浸漬させた後、再度ブラシでノズルを傷つけないようこすり落とす。
- 洗浄後は、手動操作にして霧化エアを噴出させ、空気通路に流入した溶剤を吹きとばす。

②塗料ホース、自動エア静電塗装機、エア制御式塗料調整器の洗浄

塗料の色替えや塗装機を長時間使用しない場合には、塗料経路内を洗浄します。

- 高電圧スイッチの「切」を押し、高電圧の発生を止める。
- アクチュエータを停止させ、塗料とエアの噴霧を止める。
- 作業選択スイッチを「洗浄」にする。
- 手動操作にし、塗料ポンプを空送りし、塗料経路内の塗料を抜き取る（加圧したエアを送ると、時間を短縮出来ます）。
この時、高電圧が切れていることを再度確認する。

- ポンプの三方コックを切り換えて、塗料ホース、エア制御式塗料調整器、自動エア静電塗装機内の塗料をエアにて押し出す。押し出した後は、コックを閉じる。
- 塗料ポンプの吸い上げパイプを溶剤タンクに切り換え、自動静電塗装機先端から溶剤を流出させずに、塗料経路内を循環させます（きれいな溶剤でこの動作を 2～3 回繰り返します）。
- 長時間使用しない場合は、塗料経路内の溶剤を完全に出すか、または完全に充満しておいてください。
- 各機器の表面の汚れは溶剤を含ませた布で拭き取ってください。また、ガンのシュラウドをはずして、内部を溶剤で洗浄しないでください。

警告

- ノズルを洗浄する場合は、必ず高電圧スイッチを切る事を忘れないでください。
- 使用塗料が電気抵抗値の低い場合は絶縁台を使用しないと、静電効果がありません。
一般的には、設定電圧-60kV にて塗料の抵抗値 20MΩ-cm 以下の場合、または高電圧発生器の電流計が-50 μA 以上を指示する場合は、絶縁台を用いる必要があります。
- 作業者は塗装機本体から 1m 以上離れてください。塗装機に接近すると電撃を受ける危険があります。
- 塗装室内には溶剤の容器を置かないでください。

注意

- ノズル部は、塗装システムの生命ともいえる部分ですから、落としたり、傷つけたりしない様、取扱いには、十分注意を払ってください。
- エアコンプレッサのドレンは 1 日 1 回必ず排出させてください。
エアフィルタとミストセパレータのカートリッジエレメントは、半年から 1 年の間隔で交換してください。
- 塗料は必ず濾過してから使用してください。
- ガンのシュラウドをはずしたままで使用しないでください。
- 二液型塗料や沈殿しやすい塗料を使用する場合は、使用後には内部に塗料が残らないよう、十分に溶剤で洗浄してください。洗浄不足ですとガン内部のバルブの耐久性を劣化させ塗料漏れの原因になります。

過電流異常の定義

静電塗装機の高電圧充電部は絶縁材で保護されています。

過電流異常の発生する 1 つの原因に、この絶縁材の表面に塗料等の汚染物が付着すると絶縁不良となり、高電圧充電部の電流が付着塗料を通して漏れ、スパークを発生するなど危険な状態に至ります。

この高電圧電流の漏れ具合を監視して、設定電流値を超えると、高電圧発生器の出力を停止させて、未然に静電気事故を防止するのが過電流保護回路の働きです。この回路が働いた状態を過電流異常と呼びます。

過電流異常の際には、一般に警報の出力とともに塗装ラインの停止などの安全手順が実行される仕組みです。復旧の際には、絶縁不良部分の発見と絶縁復旧が不可欠です。

6

保守及び定期点検

ガン、塗料ホース及び接続ケーブルは、塗料、その他の汚れの無いように常にきれいに保ってください。
また、機械的衝撃によって破損しないように常に注意してください。

6.1 作業終了時の措置

塗装作業を中断または終了する際には、下記の手順にて中断、終了してください。

6.1.1 24時間以内に作業を再開する場合

(1) 制御盤の電源スイッチをOFFにします。

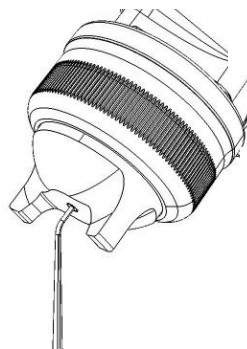
⚠ 注意

**塗料の電気抵抗値が低い場合(抵抗値 $2\text{M}\Omega\text{cm}$ 以下)は、塗料ポンプに高電圧がチャージされます。高電圧印加中には絶対にポンプには触れないでください。
触れる場合や塗料を補充する時は、静電コントローラの電源をOFFにし、アース棒でアースしてから行ってください。**

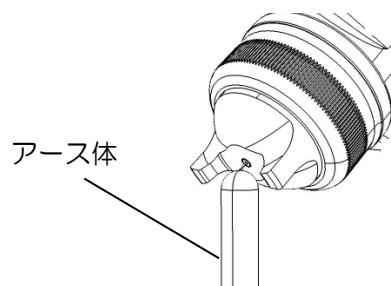
(2) ガンに供給するエア圧力を0 MPaにします。

(3) 塗料圧送装置の駆動エア圧力を0 MPaにします。

(4) ガン先から塗料を排出し、残圧を放出します。

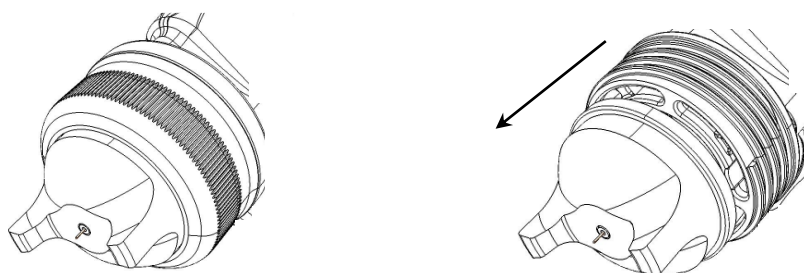


(5) 残留電荷を除くためにトリガを開放した状態で、塗料ノズル先端部の電極ピンを静かにアースします。



(6) リティニングナットを左に回して取りはずし、エアキャップも取りはずしてください。

エアキャップを取りはずす際はガン内部にシンナ・溶剤が侵入しないように注意して行ってください。



⚠ 注意

エアキャップを取りはずす際は、落下させないようにしてください。
落下させるとエアキャップが破損する恐れがあります。

⚠ 警告

人体への障害や事故に繋がる恐れがあります。
エアキャップを取り外す際は、電極ピンに触らないようにしてください。

⚠ 注意

リティニングナット、ノズルおよび機器の破損に繋がる恐れがあります。
リティニングナットを取りはずす際は、必ず手で回し取りはずしてください。
工具等を使用すると破損する恐れがあります。

(7) 洗浄溶剤を染み込ませたウエスなどで、ガン及びエアキャップに付着した塗料ミストなどの汚れを取り除きます。

⚠ 注意

ガン及びエアキャップを洗浄する際は、金属ブラシ等の硬いブラシを使用しないでください。
表面に傷が付き、性能を損なう恐れがあります。

注意

ノズル及びエアキャップを清掃する時は、溶剤が塗装機内部に入らないようにしてください。清掃後は霧化・パターンエアを放出し、侵入した溶剤を排出してください。

注意

ガン内部に溶剤が浸入すると、静電印加時に過電流異常が起こり、静電塗装ができなくなるおそれがあります。

ガン表面に付着した塗料を通して静電気がリークすると過電流異常が起こり、静電塗装ができなくなります。

注意

洗浄及び洗浄後、または作業終了時などにガン本体、電源ケーブル、ホース等は、溶剤の中へ漬けたままにしないでください。ガン内部には電気・電子回路が詰まっており、通常の使用方法では溶剤が侵入しない構造を採用しています。

しかし、溶剤類へ長時間漬けることによって耐久性が損なわれて故障の原因となることがあります。

注意

二液型塗料のような化学硬化型の塗料や、沈殿しやすい塗料の場合は「6. 1. 2 24時間以上作業をしない場合」に基づいて作業終了後には毎回洗浄してください。

警告

ガン表面に汚れ防止などの目的で、シートなどを巻き付けたまま静電気を印加させると、これに帯電し、スパークを起こし、火災の原因となります。

注意

ガンを上向きに傾けて取り付けている場合は、霧化エアとパターンエアを0.05MPa程度の弱いエアを放出した状態で洗浄してください。

メタリック塗料のような導電性塗料がエア通路に浸入すると、この塗料を通じて静電気がリークして過電流異常が起こり、静電塗装ができなくなります。

- (8) シュラウドは週に一度は取りはずし、内部に塗料や溶剤が浸入していない事を確認してください。
内部に塗料が付着している時は、溶剤で取り除いた後、エアブローして溶剤を完全に除去してから、シュラウドを取り付けてください。

注意

シュラウドをはずしたままで塗装作業をしないでください。シュラウド内部に塗料ミストが付着すると、過電流異常の原因となります。
シュラウドをはずしたままで、静電を印加させないでください。シュラウドの無い状態では、ガンの耐電圧性能が下がり、付近に接地物が有ると電圧破壊を起こしてシュラウドを取り付けても過電流異常が発生するおそれがあります。

- (9) ガンへの接続ケーブルに損傷が無い事、またロボットの稼動により、無理な引っ張りが無い事を使用前に毎日確認してください。

注意

接続ケーブルはガンへの電源の供給だけでなく、ガンの接地や制御のための線でもあります。破損したままで使用すると、接地不良になり火災や電撃の原因になります。

- (10) ガン本体の取付ブラケットなどの金属部が接地されている事を、使用前に毎日確認してください。
ガンのブラケットとブースなど接地物との間を抵抗計で測定し、10Ω以下である事を確認してください。
(11) ガンの固定部に緩みの無い事、ガンが被塗物などに当たらない事を使用前に毎日確認してください。

6.1.2 24 時間以上作業をしない場合

- (1) 制御盤の電源スイッチを OFF にします。
- (2) ガンに供給するエア圧力を 0MPa にします。
- (3) 塗料コンテナから塗料ポンプの吸込みパイプを抜き出します。
- (4) 塗料ポンプを駆動させ、塗料リターン経路より塗料を排出してください。
- (5) ガンのトリガバルブを開き、ガン先よりホース及びガン内部に残っている塗料を排出させます。
- (6) 吸込みパイプより洗浄溶剤を吸い込ませ、リターン側より洗浄廃液容器へ排出し、ポンプ内部がきれいになるまで繰返し洗浄します。
- (7) ガン先より溶剤を排出し、ホース、ガン内部を洗浄します。
- (8) ポンプを停止させてガンのトリガバルブを開き、ガン先より残圧を放出します。
- (9) リティニグナットを左に回して、エアキャップを取りはずします。
- (10) 洗浄溶剤を染み込ませたウエスなどで、ガン及びエアキャップに付着した塗料ミストなどの汚れを取り除きます。
- (11) 専用スパナをノズルの HEX に当てて回し、ノズルを取りはずします。
尚、塗料経路内の残塗料の固着を防止するため、洗浄後、洗浄液は経路内に残したままにすることを推奨します。

 **注意**

塗料ノズルの破損に繋がる恐れがあります。
ノズルを取りはずす際は、必ず付属の専用スパナを使用してください。
また、落下させないようにしてください。

(12) 塗料ノズルを洗浄溶剤にひたし、圧縮エアを当てて汚れを吹き飛ばしてください。

 **注意**

塗料ノズルの洗浄の際は、針金などの金属で突付いたりしないでください。
また、金属ブラシなどを使用しないでください。穴径の拡大や傷などにより性能を損なう恐れがあります。

 **注意**

ガンの洗浄は、静電コントローラの電源スイッチをOFFにしてから10秒経過した後に行ってください。静電塗装機による火災事故は、その90%以上がノズル等の洗浄時に発生しています。ノズル等を洗浄する時は、必ず電源スイッチを「OFF」にしてください。また、火災事故に備えて消火器を身近に準備してください。

 **注意**

作業中に異常が発生した時は、ただちに静電コントローラの電源スイッチを「OFF」にし、ガンに供給するエア及び塗料の圧力をOMPaに下げてください。

 **注意**

落下等の強い衝撃を与えないでください。
強度については十分考慮して設計されていますが、衝撃により破損することがあります。

(13) 洗浄廃液の廃棄処理については、溶剤回収装置を用いて回収再利用するか、あるいは産業廃棄物委託処理業者を通じて法令に従って処理してください。

6.2 その他の機器の保守

- (1) 塗料供給装置保守については、各々の取扱説明書をご参照ください。
- (2) エア制御式塗料調整器は、取付ブラケットの樹脂部に付着した塗料を使用後、毎日溶剤で取り除いてください。

注意

エア制御式塗料調整器の取付ブラケット表面に塗料が多く付着すると、この塗料を通じて充電電流がリークし、過電流異常が発生することがあります。

- (3) 二液型塗料や沈殿しやすい塗料を使用する場合には、使用後は十分に溶剤で洗浄し、3ヶ月に一度、定期的に分解、洗浄を行なってください。

6.3 定期点検

本機の性能が充分発揮されるよう、次頁表に従って定期的に点検を実施してください。
なお、点検時期は目安であり、使用状況により異なります。

警告

塗装機の予期せぬ動作により人体への障害や事故に繋がる恐れがあります。
定期点検を行う際は、制御盤の電源をOFFにし、エアと塗料の圧力を開放してから行ってください。

項目	処置	期間
ガン本体の外観点検	塗料汚れがある場合は、柔らかい布やブラシに洗浄溶剤を染み込ませてガン本体を拭き取る。 ガン本体に損傷がある場合は新品に交換する。	1日
エアキャップ塗料汚れ点検	エアキャップに塗料汚れがある場合は柔らかい布やブラシに洗浄溶剤を染み込ませて拭き取る。	
エアキャップのエア噴出穴の詰まり点検	エアキャップを洗浄溶剤に浸した後、エアブローして除去する。 除去できない場合は新品に交換する。	
ペイントノズルの塗料出口周囲の傷、へこみ点検	ペイントノズルに傷やへこみがある場合は新品に交換する。	
ペイントノズルの塗料噴出穴の詰まり点検	ペイントノズルを洗浄溶剤に浸した後、エアブローして除去し、除去出来ない場合は新品に交換する。	
静電印加時の電流値確認	通常時より高い場合は電流リーク箇所を特定し、部品交換する。	
チャージ電極点検	ノズルの塗料噴出口から2mm未満である場合は新品に交換する。	
接続ケーブル点検	損傷がある場合は新品に交換する。	

項目	処置	期間
各部エア漏れ点検	エア漏れがある場合は、該当部のシーンを交換する。	1ヶ月
塗料ホース内の塗料汚れ点検	塗料汚れがある場合は洗浄剤を通し洗浄する。	
	塗料固着物が除去できない場合は新品に交換する。	
トリガ/ダンプバルブ点検	漏れ穴及びガン先より塗料漏れが発生する場合は交換する。	

注記

部品の交換方法については、「9.部品取替方法」を参照ください。

注意

故障の場合以外は、みだりにガンを分解しないでください。
ガン本体の電氣的絶縁やシーリング機能を確保するため、分解は故障による部品交換の時だけにしてください。

注意

高電圧発生器の熱によりガン表面が温くなる事がありますが、異常ではありません。

6.4 消耗部品

下記消耗品リストのランク区分を参考に使用状況にあわせた予備品をご準備ください。

ランク区分	品名	品番	耐用期間	構成ユニット	掲載ページ
A	ペイントノズル ASSY	15F7	6ヶ月	EAB400R	37・40・43
	チャージ電極	1718	6ヶ月	EAB400R	37・40
	Oリング	130-9012	6ヶ月	ペイントノズル ASSY	37
	コイルチューブセット	1849-004	6~12ヶ月	EAB400R	37・40
	ストレートチューブセット	1850-004	6~12ヶ月	EAB400R	40
B	2Pバルブ	0836	12ヶ月	バルブマニホールド	34・42
C	Oリング	130-9085	—	EAB400R	40
	Oリング	130-9090	—	EAB400R	35・40
	六角穴付ボルト	03-70645	—	EAB400R	35・40
	十字穴付なべ小ネジ	364-0018	—	EAB400R	33・40
	Oリング	130-9010	—	カスケードセット	36・41
	六角穴付ボルト	03-70615	—	バルブマニホールド	42
	2点セムスネジ	12-10510	—	バルブマニホールド	42
	プラグ	1777-003	—	バルブマニホールド	42
D	Oリング	101-9005	—	ホルダ	38・43
	Oリング	130-9006	—	ホルダ	38・43
	Oリング	101-2006	—	バルブマニホールド	42
	Oリング	101-9007	—	バルブマニホールド	35・42
	Oリング	130-9004	—	バルブマニホールド	42

ランク A：日常的に消耗する部品

ランク B：中期的に消耗する部品

ランク C：分解時に破損・紛失する恐れのある部品

ランク D：分解時に交換が必要な部品

※上記消耗品リストの耐用期間は使用塗料、設備条件等により異なりますので
20日/月で8時間/日で稼働させた時の参考値です。

塗料不良の状況によっては、複数の不良現象や原因が同時に発生する場合があります。

不良の現象	原因	対策
1. 噴霧の微粒化が悪い	①霧化空気圧が低過ぎる。	①霧化空気圧を高めにする。
	②塗料噴出量が多過ぎる。	②噴出量を少なめにするか、霧化空気圧を高めにする。
	③粘度が高過ぎる。	③塗料粘度を低くする。
	④ノズル先端ピンが曲がっている。	④チャージ電極を交換する。
	⑤塗料ノズルが損傷している。	⑤ペイントノズル ASSY を交換する。
	⑥溶剤が適性でない。	⑥塗料メーカー、もしくは当社にご相談ください。
2. 塗料のはね返りが多い	①吹付距離が離れ過ぎている。	①吹付距離を 150~200mm の範囲内で作業する。
	②霧化空気圧が高過ぎる。	②霧化空気圧を低めに調整する。
	③塗料抵抗値が低過ぎる。	③塗料抵抗値を 15~70Ω-cm に調整する。
	④被塗物のアースが不完全である。	④アース状態を完全にする。
	⑤排気の色が遅過ぎる。	⑤排気の色を早めにする。
3. 塗着効率が悪い	①被塗物のアース不良。	①ハンガに固着した塗料の清掃をしてアースを完全にする。
	②霧化空気圧が高過ぎる。	②霧化空気圧を適正圧力に調整する。
	③吹付距離が離れ過ぎている。	③吹付距離を 150~200mm とする。
	④印加電圧が低い。	④静電コントローラの出力量調整スイッチで出力を上げる。
	⑤ブース給排気の色が早過ぎる。	⑤ブース給排気の色を遅めに調整する。
	⑥塗料の電気抵抗値が高過ぎる。	⑥抵抗値を 15~70MΩ-cm に調整する。
4. ノズルに塗料が付着してヒゲを生じる、または被塗物に糸状のブツを生じる	①溶剤の蒸発が早過ぎる。	①蒸発の遅い溶剤に変えるか、添加剤で調整する。
	②塗料の粘度が高い。	②塗料の粘度を低くする。
5. 塗装面にぶつぶつを生じる	①噴霧の微粒化が悪い。	①本章 1 項の「噴霧の微粒化が悪い」を参照してください。
	②塗装室内のほこりが多く、塗装面にほこりが付着している。	②塗装室の吸気部へ除塵フィルタを設置し、塗料面のほこりを除去する。
	③霧化空気汚染。	③空気通路のフィルタを清掃または交換する。
	④塗料の顔料分散の不良。	④溶剤を検討するか、塗料をよく攪拌する。
6. ゆず肌(ぶち、あばた)になる	①塗装室内温度が高いか、または溶剤の蒸発が早い。	①室温の調整、または蒸発速度の遅い溶剤に変える。
	②被塗物の温度が高過ぎる。	②被塗物の温度を下げるため、乾燥炉を調整する。
	③給排気の色が早過ぎる。	③被塗物面で 0.5~1.0m/sec に調整する。
7. はじきが出る	①被塗物の清掃が不十分。	①清掃を十分に行う、または脱脂を十分に行う。
	②霧化空気汚染。	②空気通路のフィルタを清掃か交換。
	③焼付炉の排気不良。	③排気を十分に行う。

不良の現象	原因	対策
8. 塗装面で塗料がたれる	①塗膜が厚過ぎる。	①塗料の噴出量を下げるか、ガンの運行速度を上げる。
	②塗料の粘度が低過ぎる。	②塗料の粘度を上げる。
	③溶剤の蒸発速度が遅い。	③蒸発速度の速い溶剤に変える。
9. 塗膜が透ける	①塗料の噴出量が少ない。	①塗料噴出量の調整とガンの運行速度および塗り重ねを考慮する。
	②塗料粘度が低過ぎる。	②粘度を上げる。
10. ピンホール(小穴)が生じる	①霧化空気の汚れ。	①空気通路のフィルタを清掃または、交換する。
	②溶剤の蒸発が早過ぎる。	②蒸発の遅い溶剤に変える。
	③被塗物の温度が高い。	③温度を下げる。
	④下塗りの乾燥が不十分。	④乾燥を十分行う。
	⑤セッティング時間が短い。	⑤セッティング時間を十分取る。
11. かぶり(白化)を生じる	①塗装室内外の温度および湿度が高い。	①蒸発速度の遅い溶剤にする。 または空調設備を点検する。
	②溶剤の選定が不適當。	②塗料・溶剤メーカーか、当社にご相談ください。
12. わき(発泡)を生じる	①霧化空気の汚れ。	①空気通路フィルタを清掃、または交換する。
	②水研ぎ後の乾燥が不十分。	②乾燥を十分に行う。
	③塗膜が厚過ぎる。	③塗料噴出量を少なめにする。
	④溶剤の蒸発が早過ぎる。	④蒸発速度の遅いものに変える。
	⑤焼付炉の温度が高過ぎる。	⑤温度を適性値に調整する。
13. パターン形状が悪い	①塗料ノズルの霧化空気および塗料噴出口に塗料や塵埃が固着している。	①シンナと竹ブラシでよく洗浄すると共に、塗料をろ過する。
	②塗料の粘度が高い。	②粘度を下げる。
	③ノズル先端部が損傷している。	③修理するか、交換する。
	④パターン調整不良。	④パターン調整を行う。
	⑤塗料ノズルの取付不良。	⑤ペイントノズル ASSY が緩んでいない事を確認して、エアキャップを取り付ける。

故障の状況によっては、複数の現象や原因が同時に発生する場合があります。

故障の現象	原因	対策
1. 塗料の噴出が不安定で、塗装中息切れ状態になる	①ペイントノズル ASSY の締め付け不十分。	①ペイントノズル ASSY を十分に締め付ける。
	②塗料に空気が混入している。	②塗料供給系統を調べる。
	③塗料噴出量が極端に少ない。	③塗料噴出量を増やすか、霧化空気圧力を下げる。
2. 塗料噴出量が少なくなっている	①塗料圧送系統の異常。	①塗料ポンプや塗料レギュレータなどの塗料供給系統を調べる。
	②バルブに塗料の固まりや塵埃が詰まった。	②バルブを洗浄する。
	③ペイントノズル ASSY に塗料や塵埃が固着している。	③ペイントノズル ASSY を取りはずし、洗浄する。
3. ノズルから塗料が漏れる	①バルブに、塗料の固まりや塵埃が詰まった。	①バルブを洗浄する。
	②バルブの摩耗やカケ。	②バルブを交換する。
	③塗料の圧送圧力が高過ぎる。	③圧送圧力を下げる。
4. 本体漏れ確認穴から塗料が漏れる	①バルブの損傷。	①バルブを交換する。
5. バルブの開閉動作が不安定	①バルブスプリングのへたり	①バルブを交換する。

故障の現象	原因	対策
6. ノズル部より火花が出る (絶縁台を使用していない場合)	①カスケードの損傷	①カスケードを交換する。
7. ノズル部より火花が出る (絶縁台を使用している場合)	①カスケードの損傷 ②塗料の電気抵抗値の低い塗料か メタリック塗料に変えた。	①カスケードを交換する。 ②静電コントローラの出力電圧を下げる。
8. コントロールユニットの警報ブザーが鳴る (絶縁台を使用していない場合)	①ガン本体外面に塗料が付着している	①ガン本体外面を清掃する。
	②塗料ホース内径に塗料が付着している。	②塗料ホースを清掃する。
	③エア通路内に水分が たまっている。	③エアライン中のドレン排出を十分に行う。 静電コントローラの電源を切り、 トリガバルブを開放してエアパージを 行い、エア通路内の水分を噴出する。
	④塗料の電気抵抗値の低い塗料か メタリック塗料を使用した。	④絶縁台を使用してください。
9. コントロールユニットの警報ブザーが鳴る (絶縁台を使用している場合)	⑤パッキン損傷に よって塗料が漏れだした。	⑤パッキンを交換する。
	①ガン本体外面に塗料が付着している	①ガン本体外面を清掃する。
	②塗料ホース内径に塗料が付着している。	②塗料ホースを清掃する。
	③エア通路内に水分が たまっている。	③エアライン中のドレン排出を十分に行う。 静電コントローラの電源を切り、 トリガバルブを開放してエアパージを 行い、エア通路内の水分を噴出する。
	④絶縁台の近くにアース物体がある。	④絶縁台をアース物体より 300mm 以上 離す。
	⑤絶縁台の絶縁棒に塗料が付着している。	⑤絶縁棒を清掃する。
	⑥絶縁台の絶縁棒より上の部分がアース されている。	⑥絶縁棒より上の部分のアースを切り離す。
⑦バルブ損傷によって塗料が漏れだした。	⑦バルブを交換する。	

⚠ 注意

この取扱説明書に指示する方法以外での修理を行わないでください。

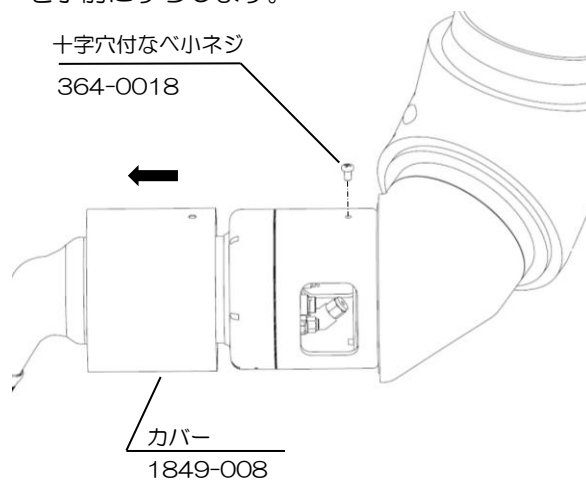
9

部品取替方法

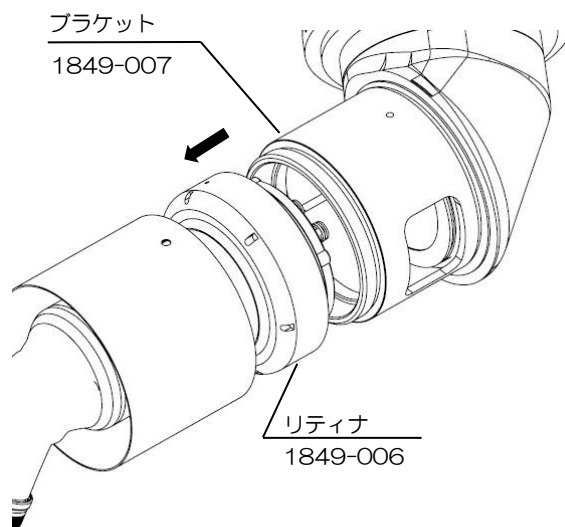
9.1 ガン本体の分解（10 構成部品 参照）

(1) アクチュエータからの取りはずし

1. まず、エア、塗料の圧力、静電がかかっていないことを確認し、カバーを固定している十字穴付なべ小ネジを緩めてカバーを手前にずらします。



2. リティナを緩めてブラケットからガンを外します。



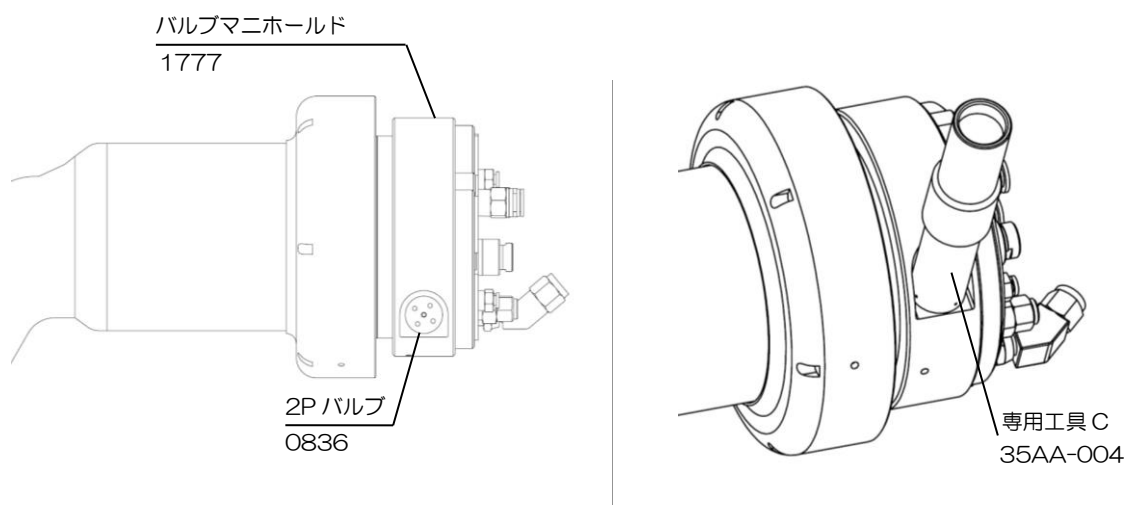
⚠ 注意

このときエア・塗料チューブ、静電ケーブル、アース線が折れ曲がったり、断線しないよう注意してください。

3. エア・塗料チューブ、静電ケーブル、アース線をガンから切り離し、ガンを安定した作業台の上などに移動させてください。取り付けは逆の手順で行なってください。

(2)バルブの交換

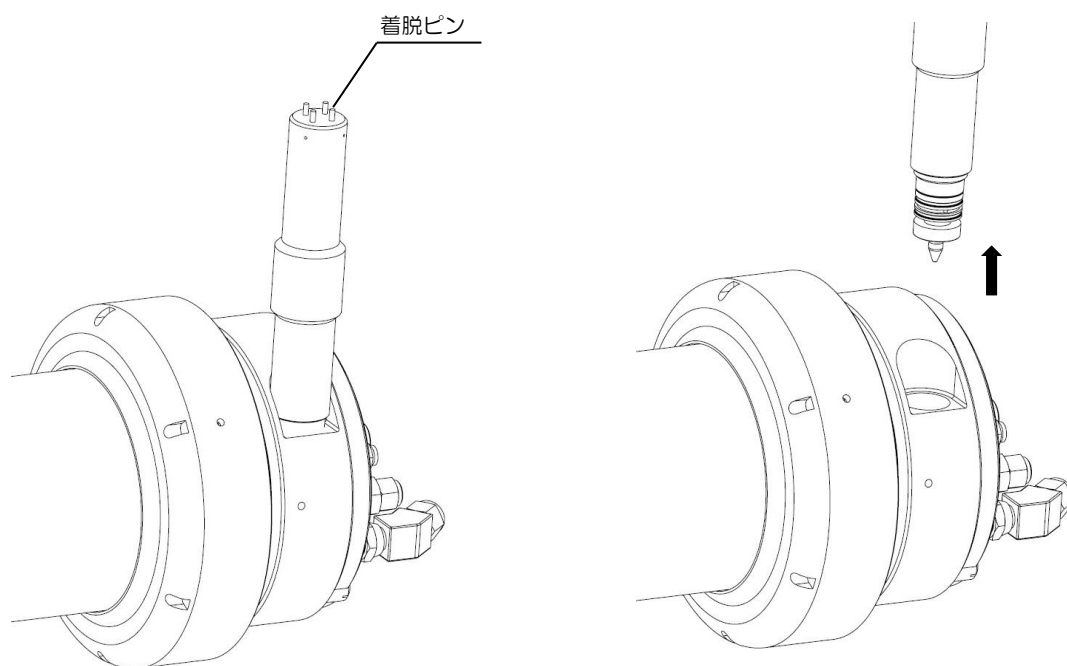
1. 専用工具 C を使用してバルブマニホールドから 2P バルブを取りはずします。



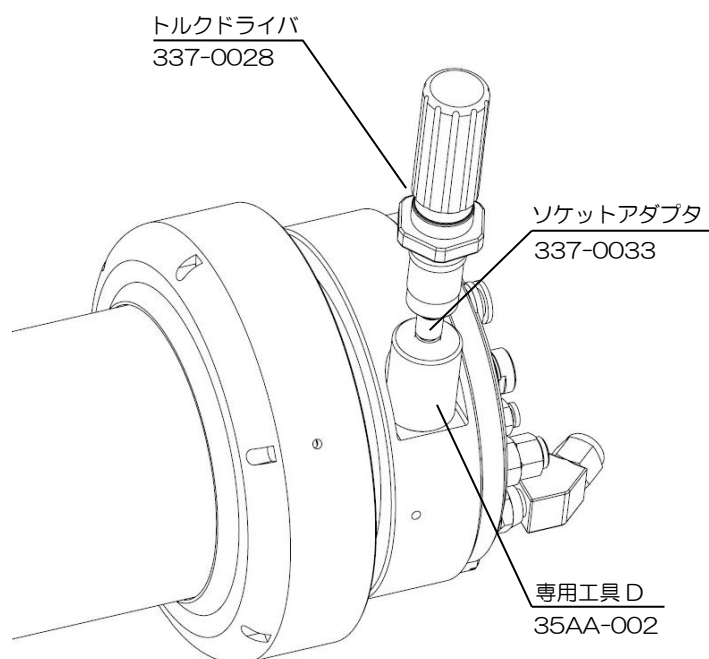
注記

トルクドライバは取り付け専用です。取り外しのときは使用しないでください。
破損する恐れがあります。

2. 2P バルブが抜けない場合は、専用工具 C の 2P バルブ着脱ピンがある反対側のねじ部には 2P バルブのねじ部にはめ込み引き抜いてください。



3. 新品のバルブを取り付けるときは、トルクドライバ、専用工具 D、ソケットアダプタを用いてバルブマニホールドに 200cN・m の締め付けトルクで取り付けてください。

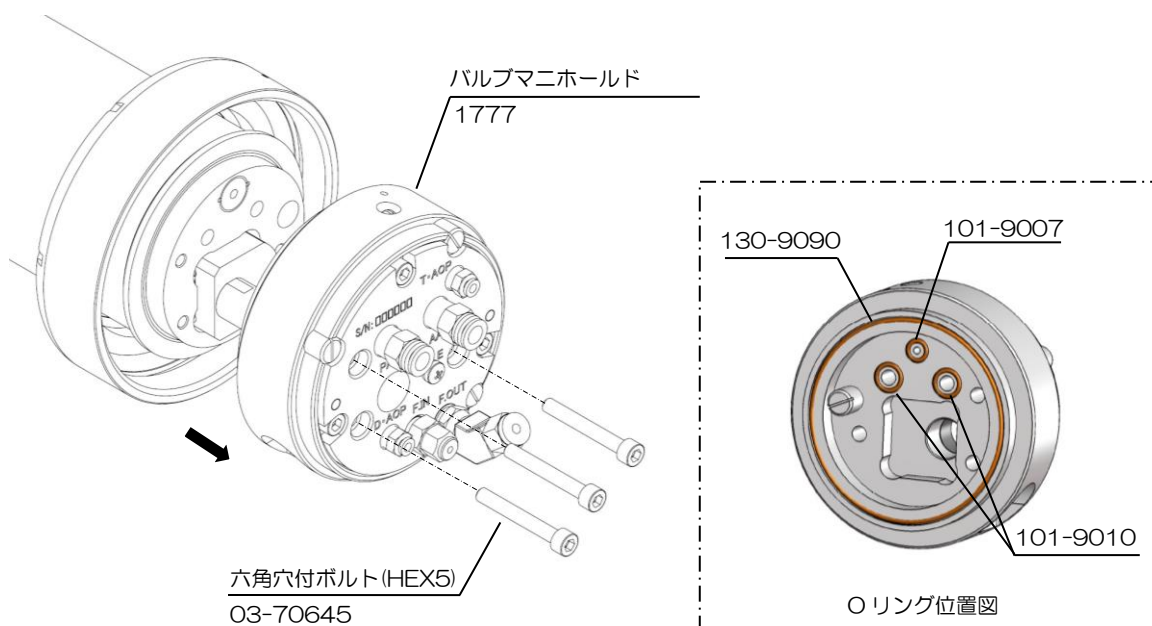


⚠ 注意

締め付けトルクは必ず守ってください。早期不具合や部品の破損に繋がる恐れがあります。

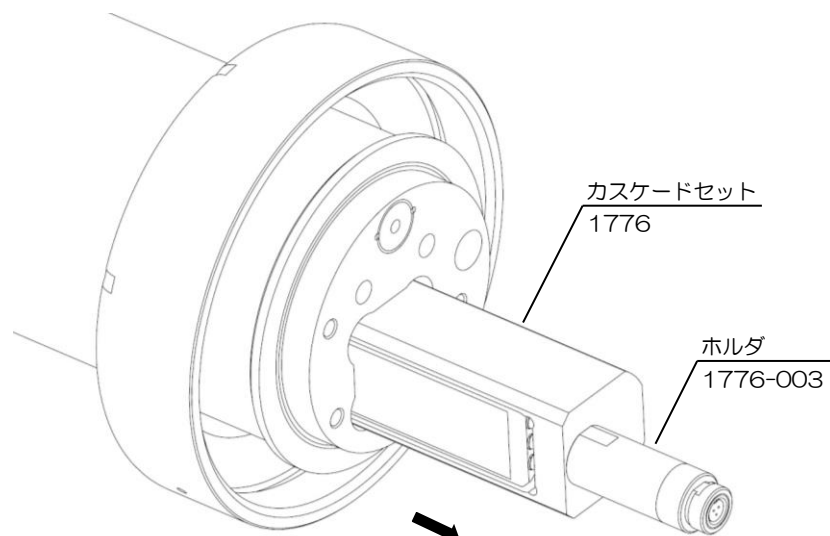
(3)バルブマニホールドの交換

1. 六角レンチを使用して、六角ボルトを 3 箇所緩めて、バルブマニホールドを新品と交換します。取り付けるときは O リングを入れ忘れていないことを確認してください。

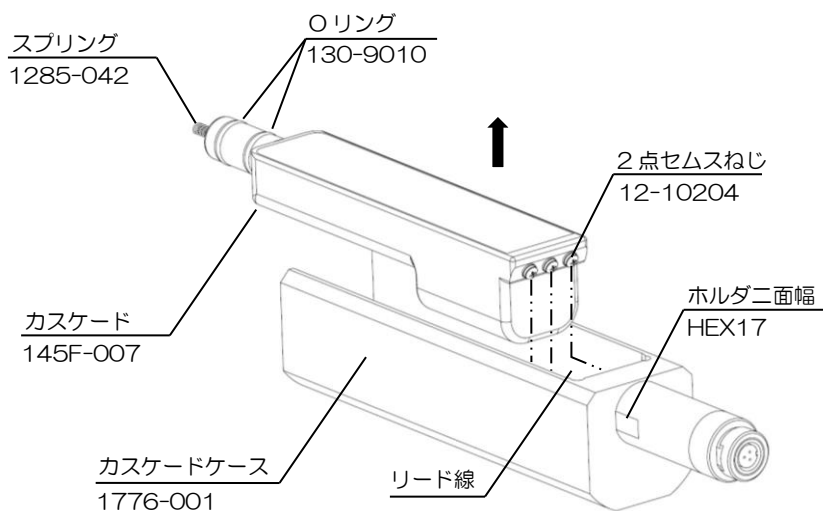


(4)カスケードの交換

1. (3)バルブマニホールドの交換の手順に従い、バルブマニホールドを取り外します。
2. カスケードセットのホルダをつかみカスケードケースをガンから引き抜きます。



3. カスケードケースからカスケードを持ち上げてカスケード後部のリード線固定端子から2点セムスネジ3個をはずしてリード線を取りはずします。リード線はホルダと一体化になっています。交換するときはカスケードからリード線を外した状態で、ホルダの二面幅をスパナを使用して緩めて新品と交換してください。

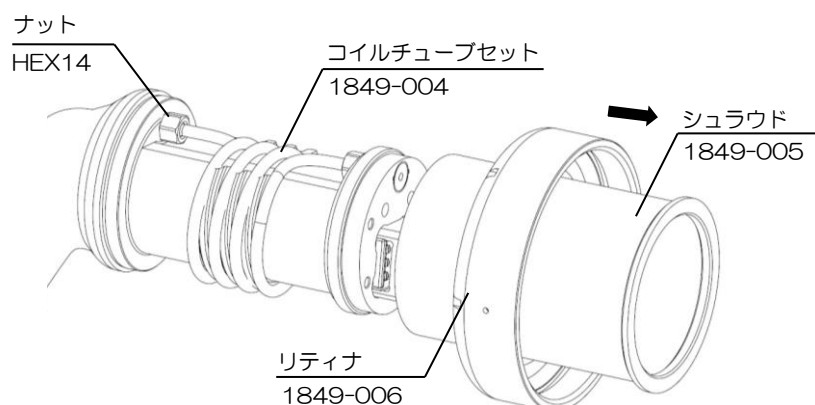


4. 新しいカスケードにOリング、スプリングが取り付けられていることを確認してから逆の手順で組み立ててください。リード線は下記に従い正しく接続してください。

カスケード端子	リード線
GND	緑
AC	黄
RTN	赤

(5) コイルチューブセットの交換

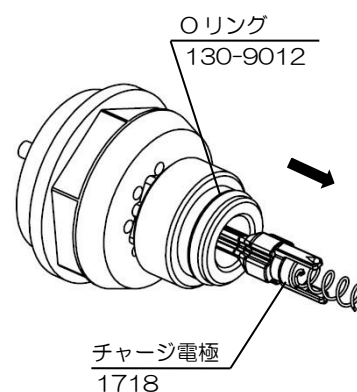
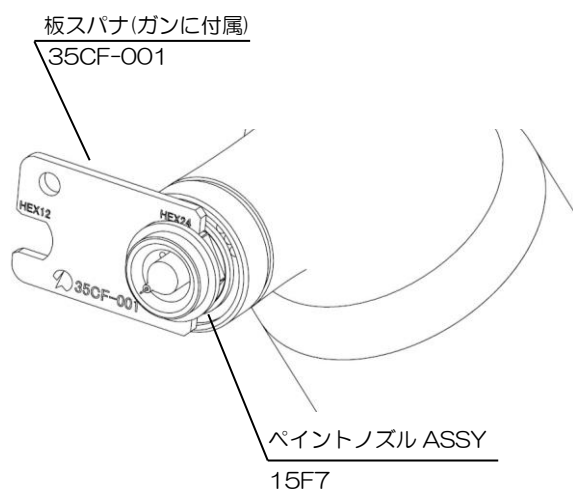
1. (3)バルブマニホールドの交換の手順に従い、バルブマニホールドを取り外します。
2. シュラウドのねじを緩めてガンからシュラウドとリティナを外します。



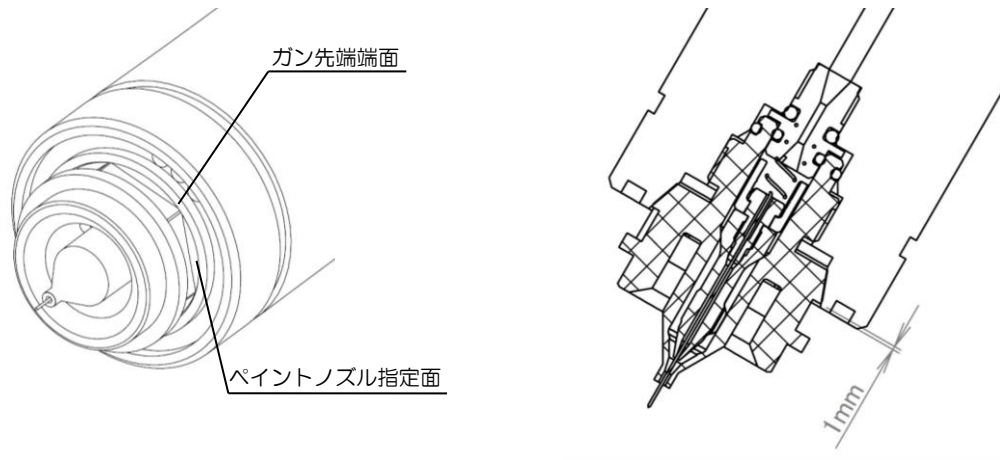
3. スパナを使用してナットを緩め、新品のコイルチューブセットと交換してください。交換後チューブを引っ張り抜けないことを確認してください。

(6) ペイントノズル ASSY・チャージ電極の交換

1. エアキャップ、リティニングナットを外した状態で、板スパナを使用してペイントノズル ASSY を外してください。
2. 取りはずしたペイントノズル ASSY からチャージ電極のスプリングをつかみチャージ電極を引き抜いて交換してください。
3. ペイントノズル ASSY を外したときに、Oリングが損傷している場合は交換してください。

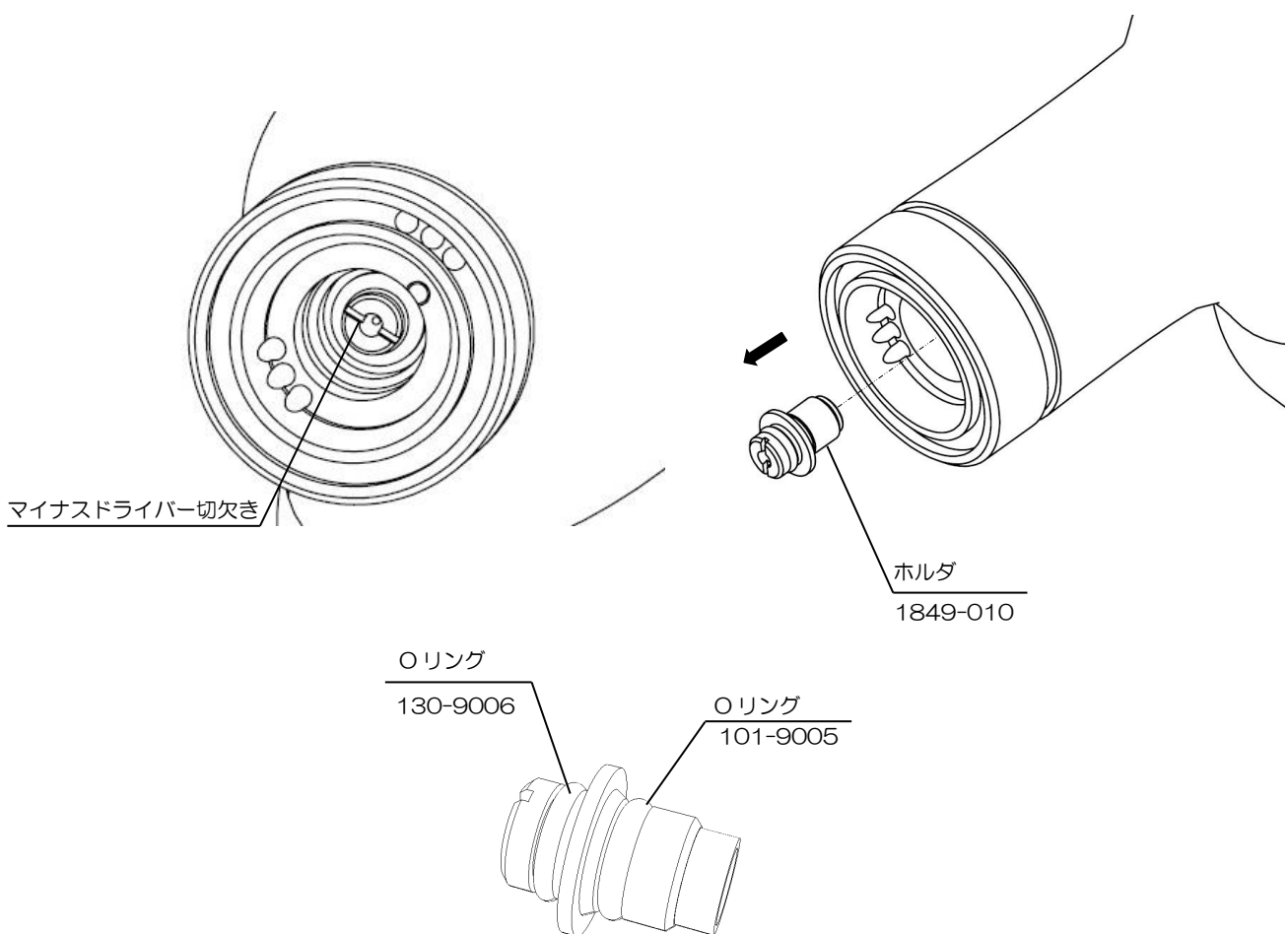


4. ペイントノズル ASSY を取り付けるときは、下記の図のようにガン先端端面からペイントノズル指定面が 1mm 程度入り込んだ位置が適正位置ですのでその位置まで締め込んでください。適正位置に達していない場合、パターンの調整不良や塗料逆流が発生する可能性があります。



(7)ホルダの交換

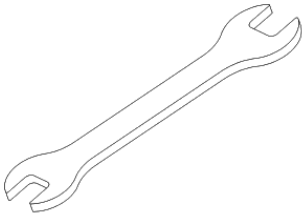
1. (6)ペイントノズル ASSY・チャージ電極の交換に従ってペイントノズル ASSY、チャージ電極を外した状態で、マイナスドライバーを使用してガンからホルダを外し新品と交換してください。ホルダを外したときに O リングが損傷している場合は交換してください。



9.2 メンテナンスツール

メンテナンスを実施するときに必要なツールを下記に示してあります。

必要に応じて注文して頂くようお願い致します。

<p>専用工具 C 品番：35AA-004</p> 	<p>専用工具 D 品番：35AA-002</p> 	<p>トルクドライバ 品番：337-0028</p> 
<p>ソケットアダプタ 品番：337-0033</p> 	<p>ベルトレンチ 品番：337-0034</p>  <p>リティナ着脱用(固着時)</p>	<p>両口スパナ 品番：335-1417</p>  <p>HEX14-17</p>
<p>六角棒レンチ 品番：334-0050</p>  <p>HEX5</p>	<p>プラスドライバー 品番：333-0100</p> 	<p>マイナスドライバー 品番：333-1100</p> 

10

構成部品

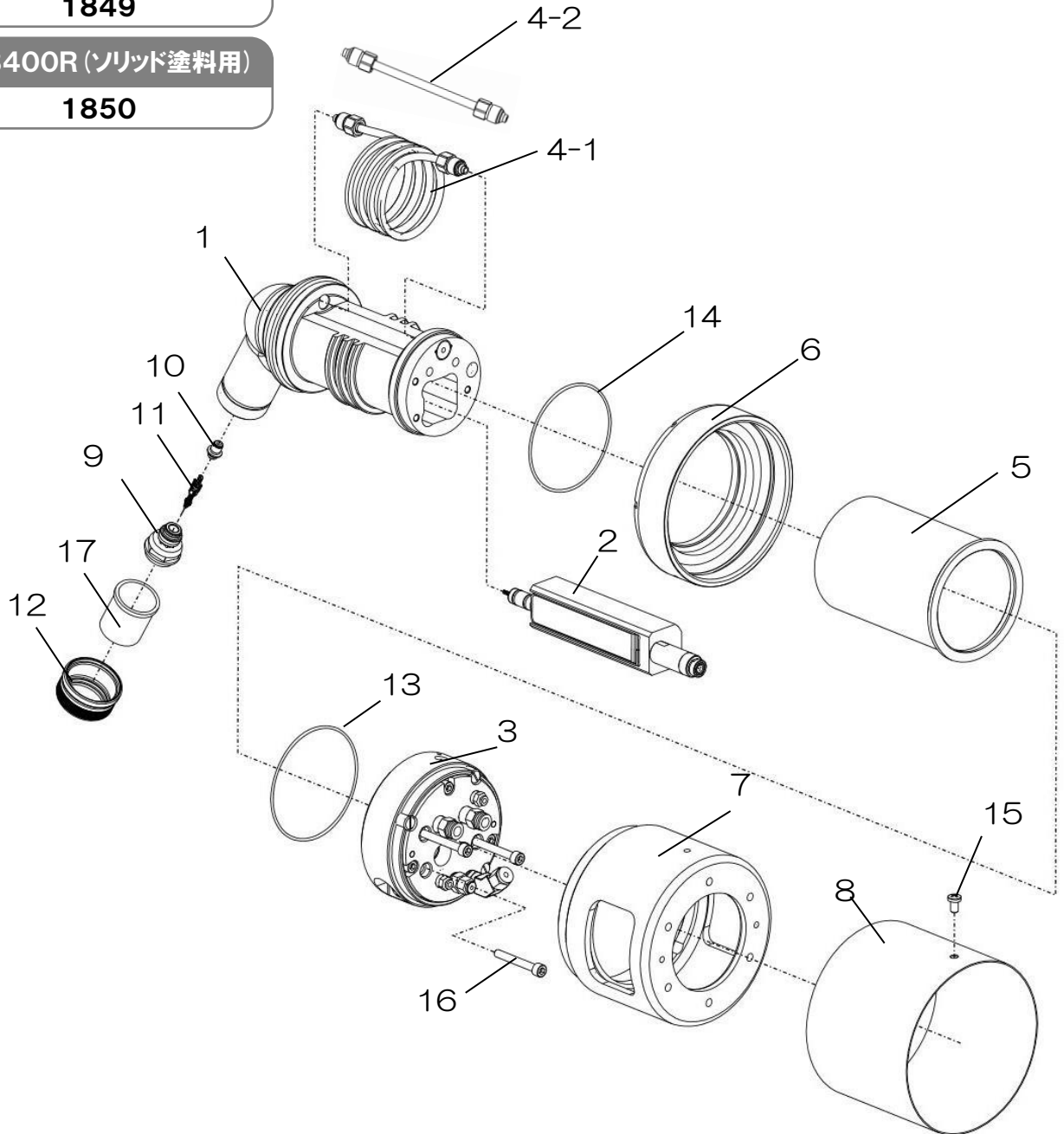
10.1 EAB400R

EAB400R (メタリック塗料用)

1849

EAB400R (ソリッド塗料用)

1850



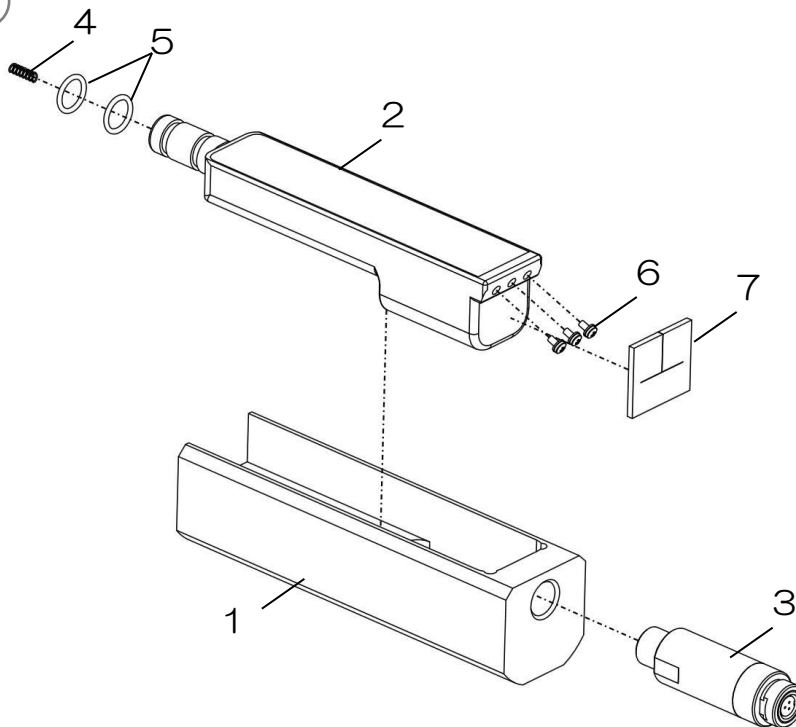
番号	部品番号	品名	個数	備考
1	1849-001	ボディ	1	
2	1776	カスケードセット	1	
3	1777	バルブマニホールド	1	
4-1	1849-004	コイルチューブセット	1	※1
4-2	1850-004	ストレートチューブセット	1	※2
5	1849-005	シュラウド	1	
6	1849-006	リテナ	1	
7	1849-007	ブラケット	1	
8	1849-008	カバー	1	

番号	部品番号	品名	個数	備考
9	15F7	ペイントノズルASSY	1	
10	1849-010	ホルダ	1	
11	1718	チャージ電極	1	
12	1707	リテーニングナットASSY	1	
13	130-9090	Oリング	1	
14	130-9085	Oリング	1	
15	364-0018	十字穴付なべ小ネジ	1	
16	03-70645	六角穴付ボルト	3	
17	12A1-099	ノズルカバー	1	

※1 メタリック塗料用 ※2 ソリッド塗料用

カスケードセット

1776



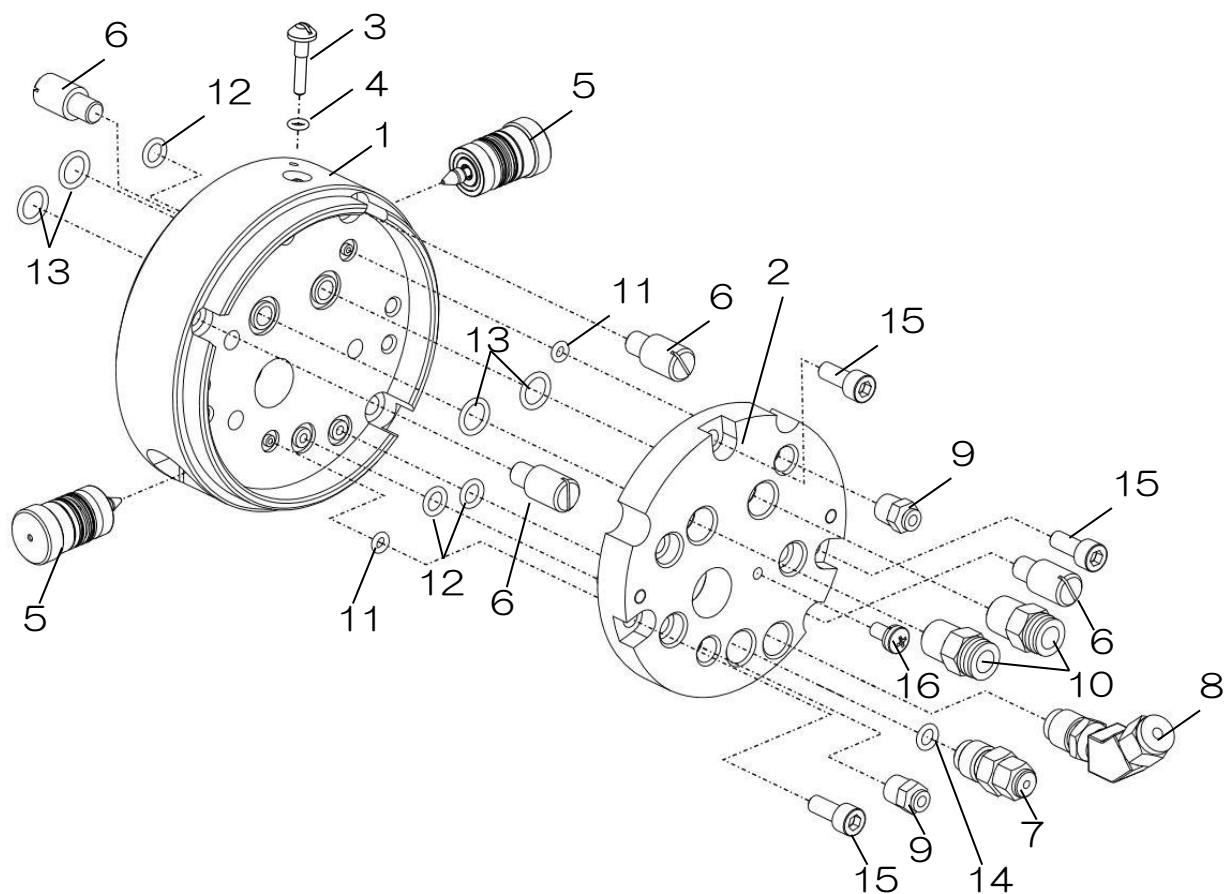
番号	部品番号	品名	個数	備考
1	1776-001	カスケードケース	1	
2	145F-007	カスケード	1	
3	1776-003	ホルダ	1	※
4	1285-042	スプリング	1	

番号	部品番号	品名	個数	備考
5	130-9010	Oリング	2	
6	12-10204	2点セムスネジ	3	
7	145E-036	端子カバー	1	

※カスケードと接続する電線を含みます。

バルブマニホールド

1777

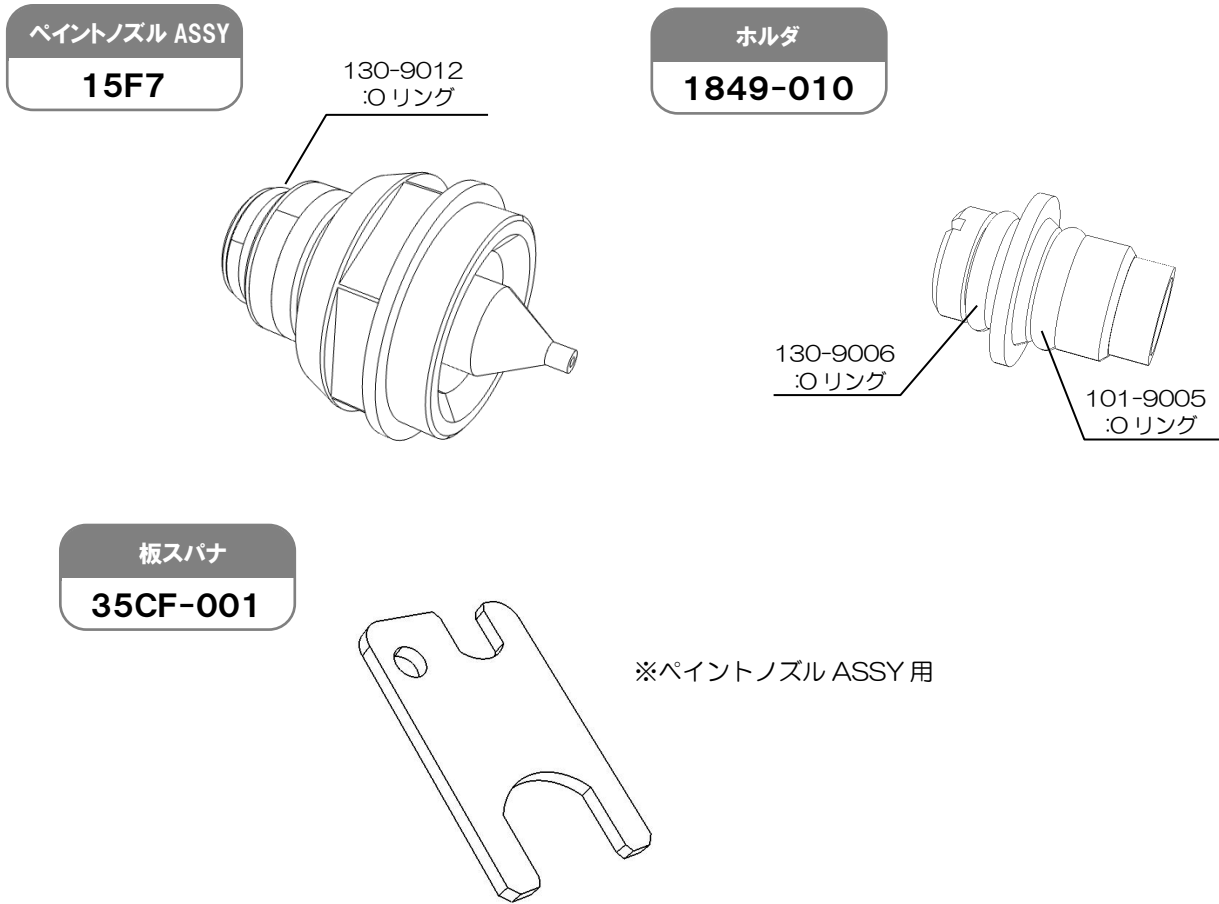


番号	部品番号	品名	個数	備考
1	1777-001	マニホールド	1	
2	1777-002	ジョイントプレート	1	
3	1777-003	プラグ	1	
4	130-9004	Oリング	1	
5	0836	2Pバルブ	2	
6	149A-005	ボルト	4	
7	342-0133	ニップル	1	
8	342-0199	スイングエルボ 40	1	

番号	部品番号	品名	個数	備考
9	376-0401	クイック継手	2	
10	376-0802	クイック継手	2	
11	101-9004	Oリング	2	
12	101-9007	Oリング	3	
13	101-9010	Oリング	4	
14	101-2006	Oリング	1	
15	03-70615	六角穴付ボルト	3	
16	12-10510	2点セムスネジ	1	

10.2 交換部品

下記に部品 ASSY 内の交換可能部品を挙げます。
表示のない部品に関しては ASSY 単位で交換するようにしてください。



11

処理記録

部品の取替え・分解掃除・故障不具合・修理などの処理をされたときの履歴管理としてお使いください。

機械名	エア静電自動ガン〈EAB400R〉		購入	年	月	日
処理の年月日	処理の部所	摘要	結果	処理者		
						自社・販売店・旭サナック
						自社・販売店・旭サナック
						自社・販売店・旭サナック
						自社・販売店・旭サナック
						自社・販売店・旭サナック
						自社・販売店・旭サナック
						自社・販売店・旭サナック

ご注意：本機の形状および仕様は改良等都合により予告なく変更することがあります。

本保証書は、下記規定内容で無償修理を行うことをお約束するものです。
 納入日から1年を保証期間として、万が一故障が発生した場合、本保証書に記載の規定により無償修理
 または交換いたします。

型式	EAB400R	品名	大型ロボット用エア静電自動ガン
製造番号		納入日	年 月 日
お客様	御社名		
	ご担当者名		
	ご住所	〒	
	TEL		
販売店	販売店名		
	住所		
	TEL		

誠に恐縮ですが、「保証書」は、内容をよくお読みになった上で、「お客様のお名前・ご住所」、「納入日」、「販売店」など必要事項については、お客様でご記入していただき、納品書とともに大切に保管して下さるようお願いいたします。なお、無償保証による修理等をご依頼される場合、本保証書と共に納入日を証明できる納品書をご提示ください。

●保証規定

- 取扱説明書、本体添付ラベル等の注意書に基づいて、お客様が正常な状態のもとでご使用になり、万一保証期間内に故障した場合は、販売店、または当社営業所に修理をご依頼ください。
 当社で点検・調査した後、その故障が材質・製造上の欠陥であると判明した場合は、無償にて故障箇所の修理または取り替えをさせていただきます。
 なお、離島および離島に準ずる遠隔地への出張修理を行った場合には、出張に要する実費を申し受けることがあります。
- 本製品の故障またはその使用によって生じた本製品以外に及ぼす損害については、当社はその責任を負わないものとします。
- 次のような場合には、保証期間中でも有償修理になります。
 - 保証書および納品書のご提示がない。
 - 本保証書に製造番号またはロット番号、および販売店名の記入のない、または記載内容を書き替えられたことが判明。
 - お客様による輸送、移動時の落下、衝撃等、お客様の取り扱いが適正でないために生じた故障、損傷。
 - お客様による改造、修理に起因する故障および損傷。
 - 火災、塩害、ガス害、地震、落雷、および風水害、その他天災地変、あるいは異常電圧などの外部要因に起因する故障および損傷。
 - 本製品に接続している当社以外の機器およびソフトウェアに起因する故障および損傷。
 - 消耗品の交換・修理。
 - 純正部品以外の部品が使用されていた場合の故障。
- 本保証書は日本国内においてのみ有効です。
- 本書は再発行いたしませんので大切に保管ください。

この保証書によってお客様の法律上の権利を制約するものではありません。
 保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は販売店、または当社営業所にお問い合わせください。

-
- 本機械を譲渡するときは、必ず機械に本書を添付して次の所有者に渡してください。
 - 本機械は、日本国内の法規に基づき製作されています。
本機械を日本国以外で使用するときは、その国の安全規格を遵守する必要があります。
-

令和 7年10月 7日 第12版

旭サナック株式会社

本社
愛知県尾張旭市旭前町新田洞 5050 番地 〒488-0852
TEL 0561-53-1213 FAX 0561-54-8847

URL : www.sunac.co.jp
E-mail : sunac_c@sunac.co.jp



営業所一覧

令和 7年10月 7日 第12版